

国際シンポジウム

「南アジアにおける ベンガルを問う」



ベンガル地方は南アジアの最東端に位置し、歴史的に見て、東南アジア世界、東アジア世界と重なり合う境界地帯といってよい。その様な境界地帯が、いかにしてベンガルというアイデンティティを獲得し、南アジア世界の中に位置づけられたのか？ベンガルが南アジア世界の辺境に位置するというのが、その歴史や社会にどのような特徴を与えたのか？ベンガルは南アジアの中で例外的、あるいは、異端的な存在なのか？

ベンガルの部族、カースト、農業社会構造、農家経営の階層性などを長期的視点から考察して、ベンガル地域研究の基本的な視座を見出したい。

日時

2017年5月13日（土）13:30～17:30（13時開場）

会場

東京外国語大学研究講義棟 227教室

基調講演 谷口晋吉（東京外国語大学）

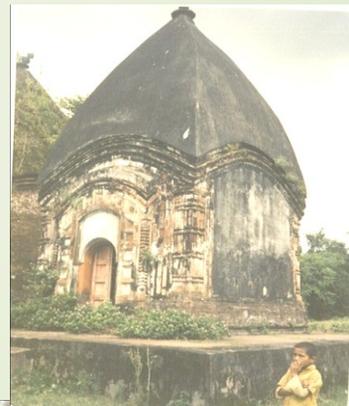
「ベンガル地域研究の基本視座を求めて」

コメンテーター

藤田 幸一（京都大学）
田辺 明生（東京大学）
Joshi Abhay（金沢星稜大学）

司会

粟屋 利江（東京外国語大学）



☆シンポジウム終了後、意見交換会を予定しております

主催：科学研究費補助金 基盤(A)「批判的地域主義に向けた地域研究のダイアレクティック」(代表 小川英文)

共催：東京外国語大学 海外事情研究所

人間文化研究機構ネットワーク型機関研究プロジェクト地域研究推進事業 東京外国語大学拠点南アジア研究センター(FINDAS)